

あわら市の 子どもたち

平成19年度より実施されている「全国学力・学習状況調査」は、児童生徒の学力や学習状況を分析することで教育施策の成果と課題の検証・改善を図り、学校における教育指導の改善等に役立てられることを目的としています。

この度あわら市教育委員会では、平成30年4月に実施された調査の結果について公表します。公表する学力は、成長過程の子どもたちの現時点での一面であり、限られた教科の学力や学習状況の一部分を測定するにすぎませんが、知・徳・体の総合的な学力の定着を目指す本市の教育活動を評価するための資料としたいと考えています。

また、児童生徒の学力の向上には、学校と家庭、地域の連携が不可欠です。今回の公表を通して、三者の連携体制をより一層強く築くための一助にしたいと思います。みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いします。

■調査対象：小学校6年の児童及び中学校3年の生徒

■調査事項および内容

1 教科に関する調査

- ・〔主として「知識」〕…国語A、算数A・数学A
- ・〔主として「活用」〕…国語B、算数B・数学B
- ・〔「知識」と「活用」の複合問題〕…理科

2 質問紙調査

- ・児童生徒質問紙（小中学校）



■教科に関する調査の結果から

小学校6年生	全国との比較	県との比較
国語A	◎	○
国語B	○	△
算数A	○	○
算数B	◎	△
理科	◎	○

中学校3年生	全国との比較	県との比較
国語A	○	○
国語B	○	△
数学A	◎	△
数学B	○	▲
理科	○	△

※表の見方 あわら市平均正答率と全国・県平均正答率との比較

3ポイント以上高い

→◎

0ポイント～3ポイント高い →○

3ポイント以上低い

→▲

0ポイント～3ポイント低い →△

【概要】

○小学校の平均正答率は、全ての教科において全国平均を上回っています。

県平均との比較では、国語Aと算数A、理科において上回り、国語Bと算数Bは下回る結果となりました。

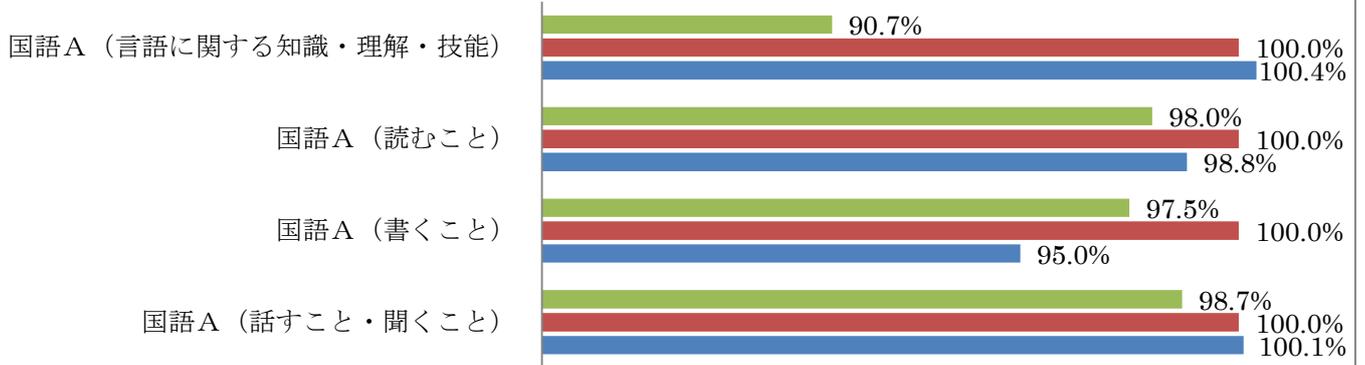
○中学校の平均正答率は、全ての教科において全国平均を上回っています。

県平均との比較では国語Aを除いた教科で下回る結果となりました。

【観点別正答率（福井県平均正答率を100%として比較）】

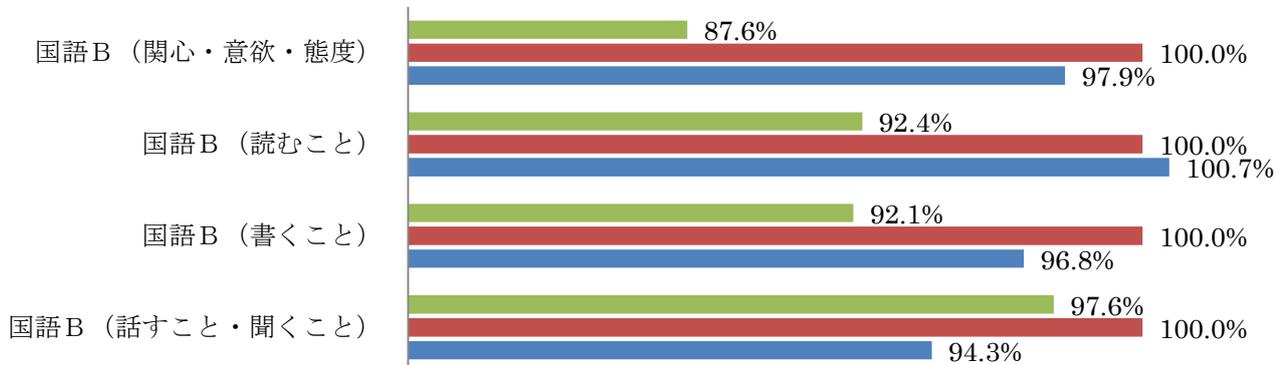
小学校国語A

■ 全国 ■ 福井県 ■ あわら市



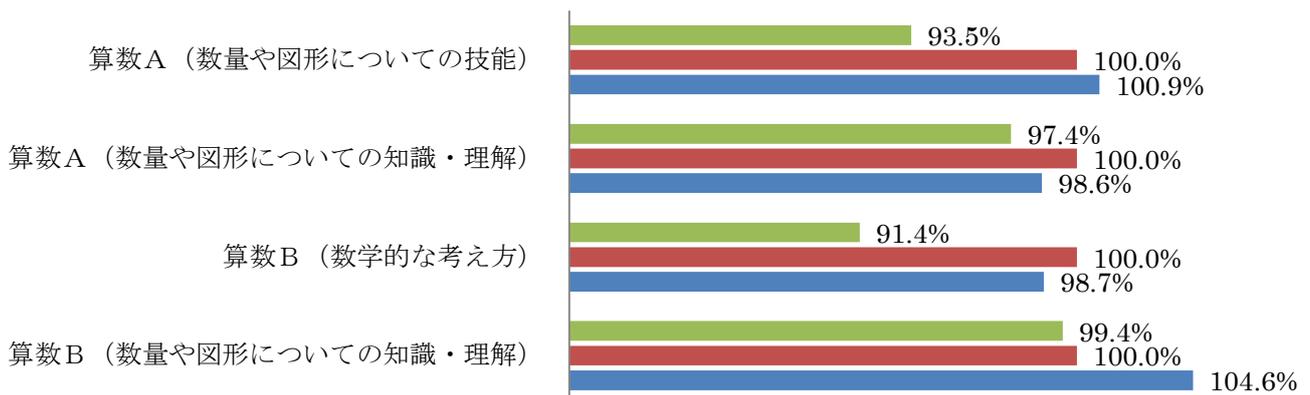
小学校国語B

■ 全国 ■ 福井県 ■ あわら市



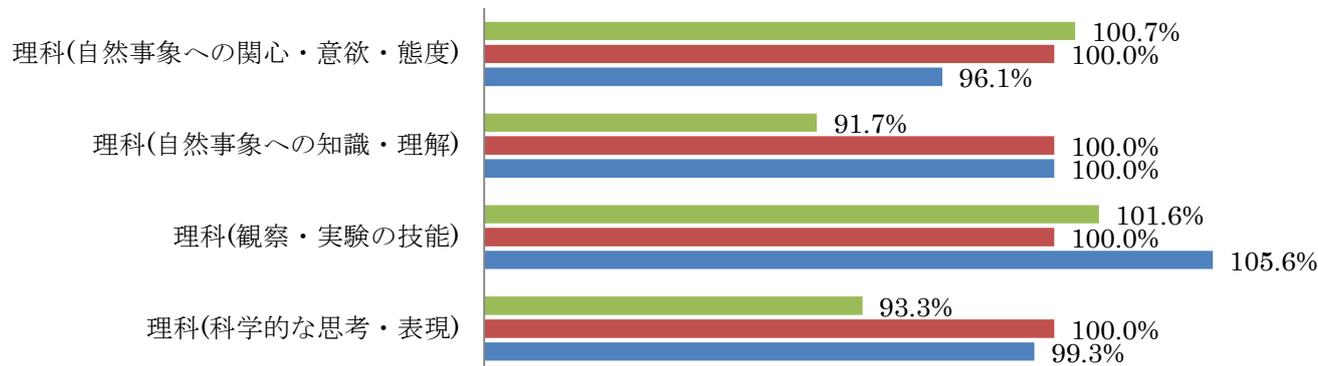
小学校算数A/B

■ 全国 ■ 福井県 ■ あわら市



小学校理科

■ 全国 ■ 福井県 ■ あわら市



【概要】

・小学校国語

漢字を正しく読み、正しく書き、文や文章中で正しく使えるかを問う問題や、相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題の正答率が高くなっています。

しかし、物語の登場人物の心情について、情景描写を基に考える問題や、話し合いの参加者として、質問の意図をとらえることができるかを問う問題ができていませんでした。

このことから、(児童質問紙でも課題としてあげられているように)日ごろから落ち着いて読書に親しむ習慣を身につけることが大事だとわかります。

・小学校算数

基本的な計算の能力(割り算や小数を使った計算など)を問う問題はできていました。また、図形の角度の比較や相似などに関連した問題もできていました。

しかし、日常生活を例にして、問題解決のために示されたいくつかの情報を解釈したり、処理したりする問題の正答率が低くなっています。

教科書やワークなどの単元の終わりにある応用問題について、自分が納得するまで考えて解く習慣をつけることが大切です。

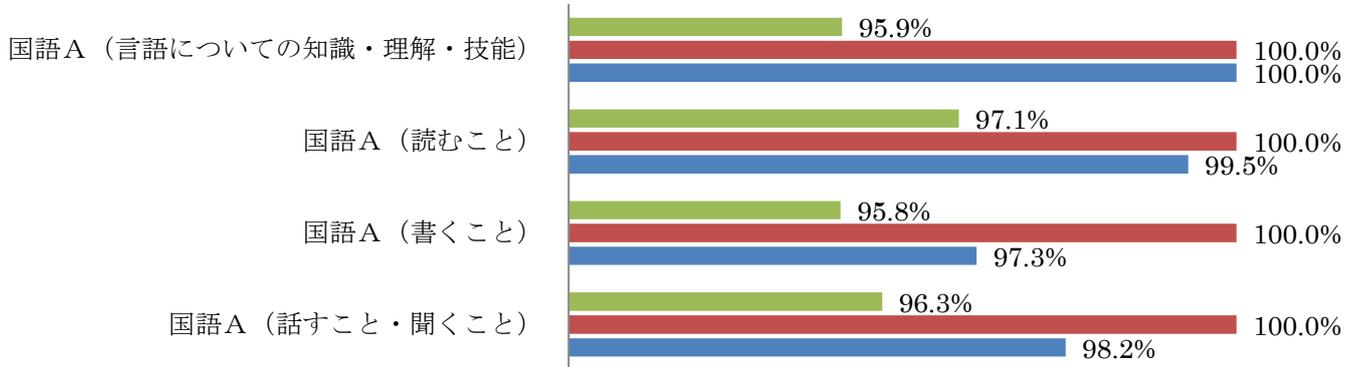
・小学校理科

ろ過の問題など基礎的な実験方法の習得状況を問う問題はよくできていました。また、実験の結果からわかることを記述する問題もできていました。これは実際に実験をしていないと解けない問題であり、興味・関心をもって実験に取り組んでいる結果だと思われます。

しかし、安全にひな鳥を観察する方法を問う問題はできていませんでした。実際に野鳥の観察をすることはなくても、安全に注意して実験や観察を行うことは、理科では大切なことです。日ごろから意識して臨むことが大切です。

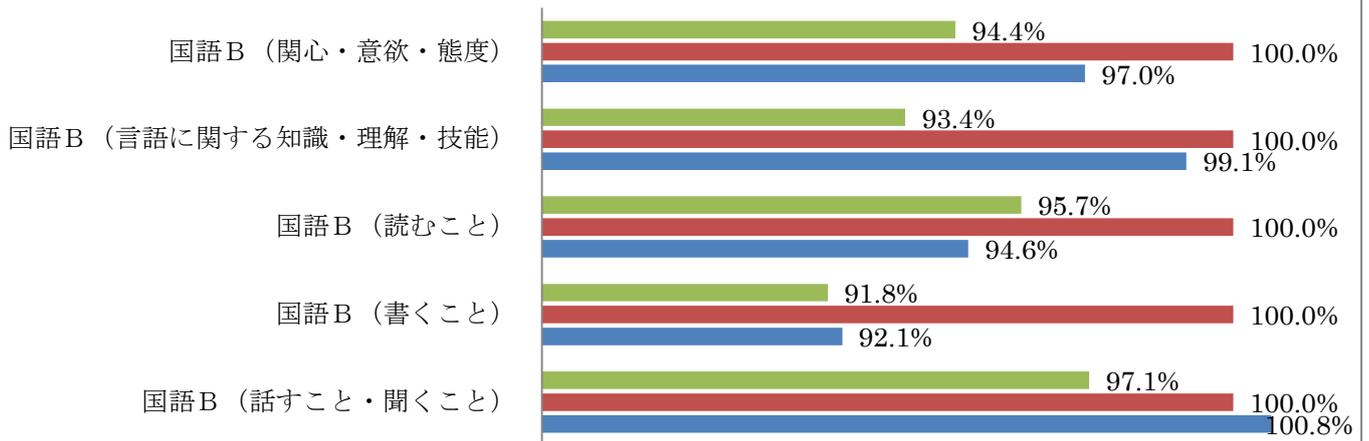
中学校国語A

■全国 ■福井県 ■あわら市



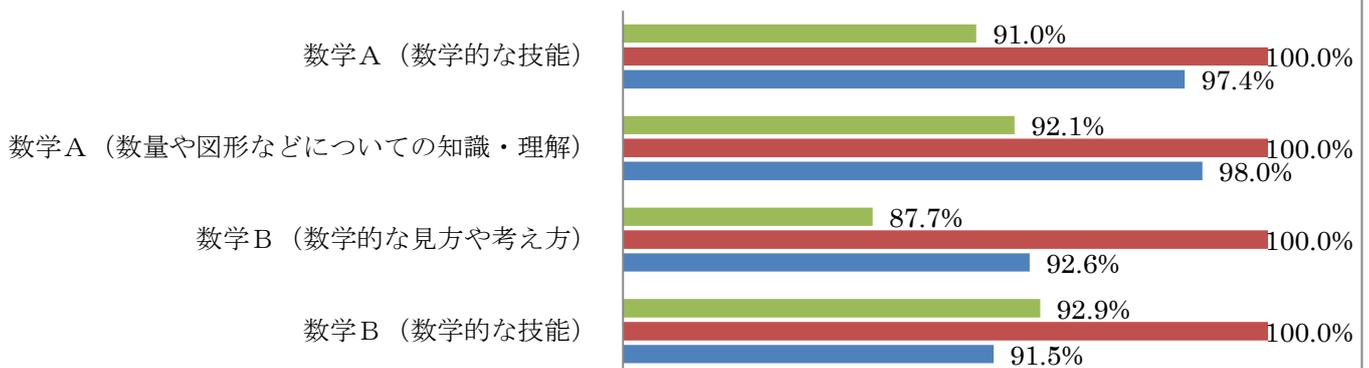
中学校国語B

■全国 ■福井県 ■あわら市



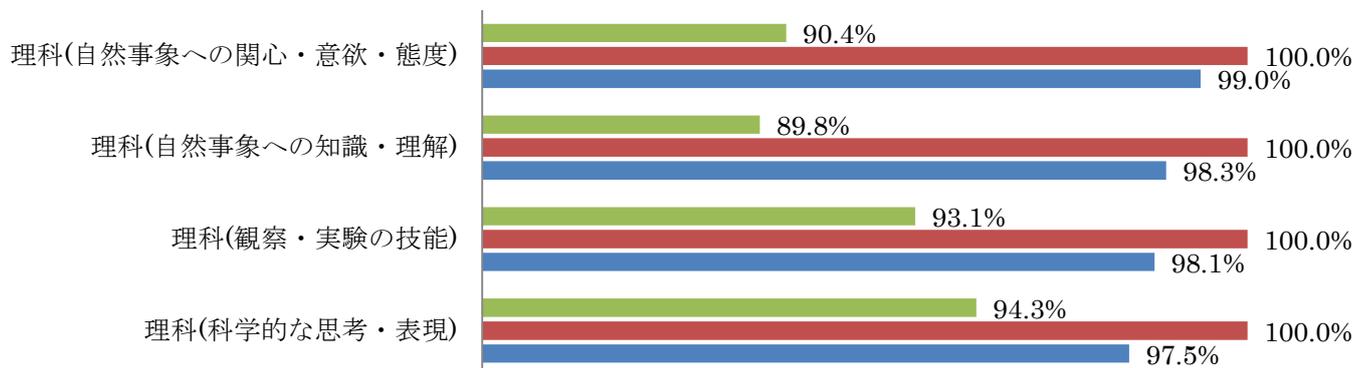
中学校数学A/B

■全国 ■福井県 ■あわら市



中学校理科

■ 全国 ■ 福井県 ■ あわら市



【概要】

・中学校国語

漢字を正しく書いたり文脈に即して正しく読んだりすること、「心を打たれる」等の慣用句の意味を正しく理解しているかを問う問題はよくできています。また、行書の正しい書き方を問う問題もできています。しかし、「ハナイカダ」など伝統的な言葉の意味を問う問題はできていませんでした。

さらには、文脈に即して情報を整理して内容をとらえたり、文章の構成や展開について自分の考えをまとめたり書いたりする読解力を問う問題の正答率は低くなっています。

小学校でも明らかになったように、読解力をつけるためにじっくりと読書をするのが大切です。また、本を読んだあとにテーマを決めて人と話し合うなど、いろいろな視点で本の内容を議論することも大切です。

・中学校算数

数直線で数の大小の関係を問う問題や、 X^2 のような指数を含んだ計算などの基礎的な計算をする問題はできています。また図形の基礎である対称性や角度などを問う問題もできています。

しかし、問題文に書かれている様々な情報を整理して式をたてたり、(列車のダイヤグラムなど)列車の運行を単純化するために作成されたグラフを使ったりする問題の正答率は低いようです。

基礎的な知識や計算する力を用いて、身の回りの様々な事象を数学的に解釈することで数学の活用力がついてきます。そのためにも積極的に応用問題などにチャレンジすることが大切です。

・中学校理科

軟体動物を見分けたり、濃度を求めたりする基礎的な問題はできています。また、目的に合わせて実験の条件を変えるなどの問題もできています。日ごろから問題意識をもって実験に取り組んでいることがわかります。

しかし、「テレプロンプター※」の原理を科学的に問う問題はできていません。光や力、粒子など視覚で確認しにくい現象は、モデルを用いたり図で表したりして理解するようにすることが大切です。

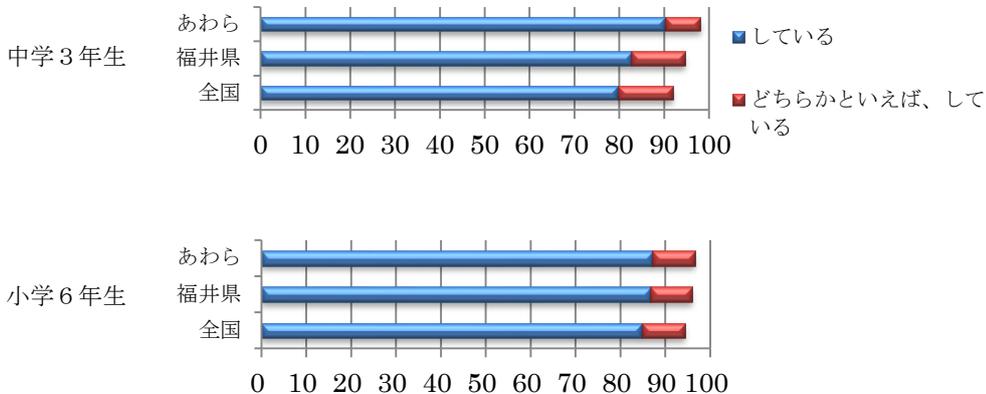
※テレプロンプター：プレゼンテーションをするときに使用する発表者用の投影装置

■児童生徒質問紙調査の結果から

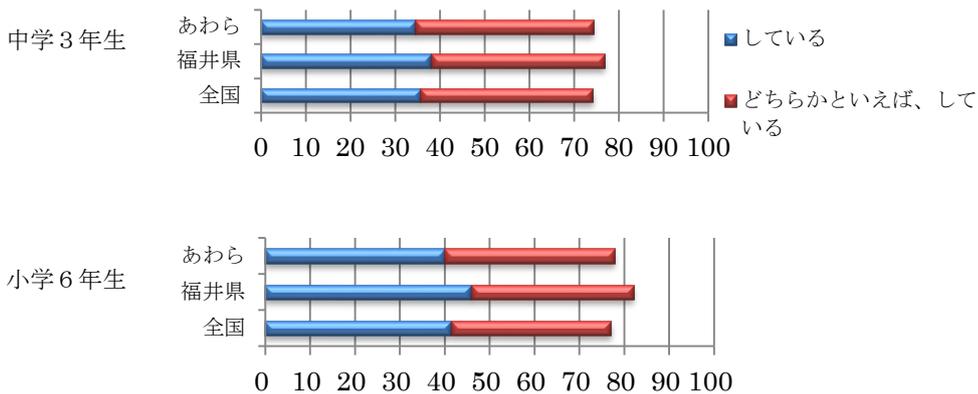
生活習慣

睡眠時間を十分に確保し、朝食を毎日食べて来るなど規則正しい生活を送っている児童生徒が多いようです。

○朝食を毎日食べていますか。



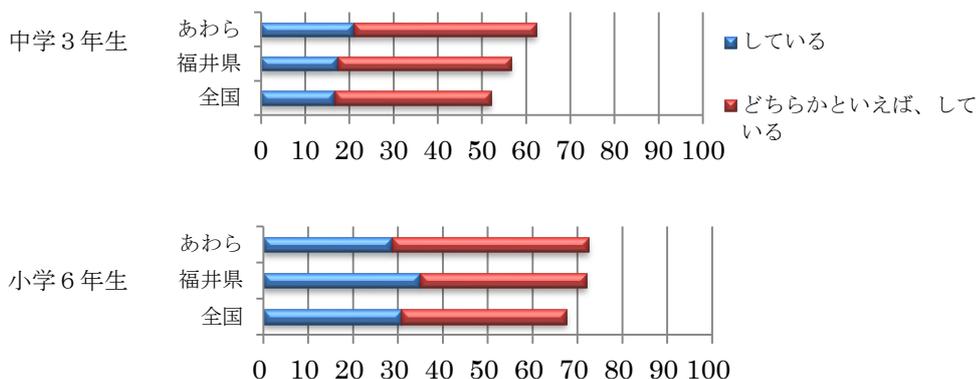
○毎日同じ時間に寝ていますか。



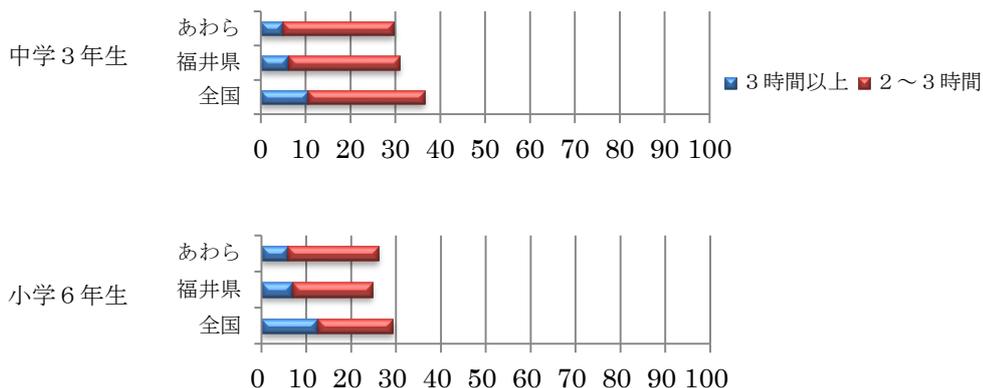
学習習慣

自分で計画的に進んで学習する習慣が身についています。しかし、普段の授業以外での勉強時間は中学生が少なく、読書時間は小学生で少なくなっています。

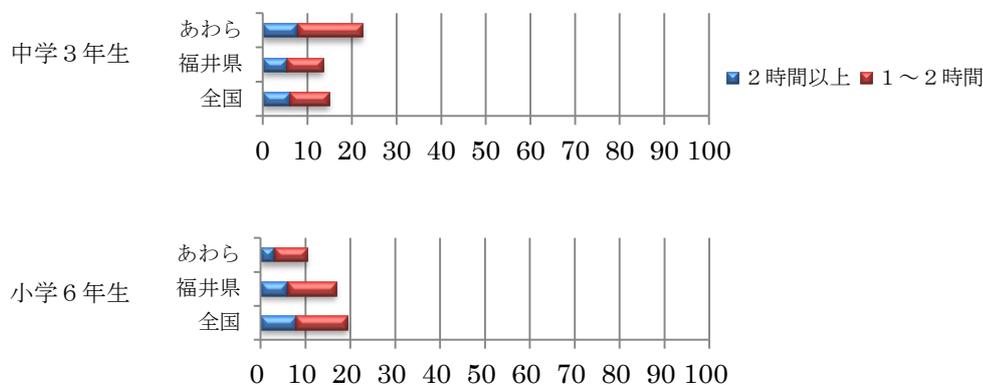
○家で、自分で計画をたてて勉強をしていますか。



○学校の授業以外に、普段、1日あたりどれくらい勉強をしますか。



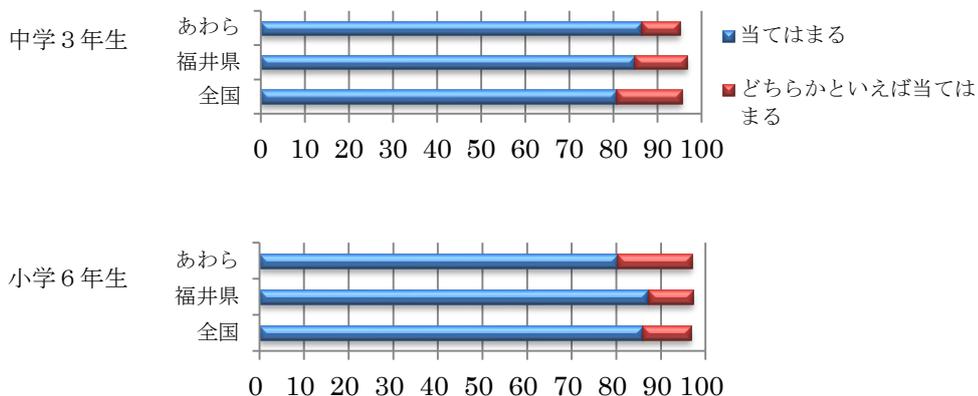
○学校の授業以外に、普段、1日あたりどれくらい読書をしますか。



規範意識

いじめはどんな理由があっても絶対にいけないことです。この質問をすべての児童生徒が肯定できていないことに課題があります。

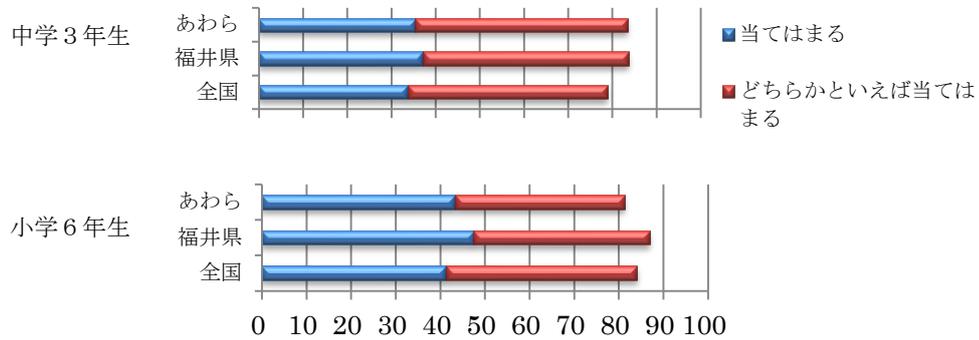
○いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。



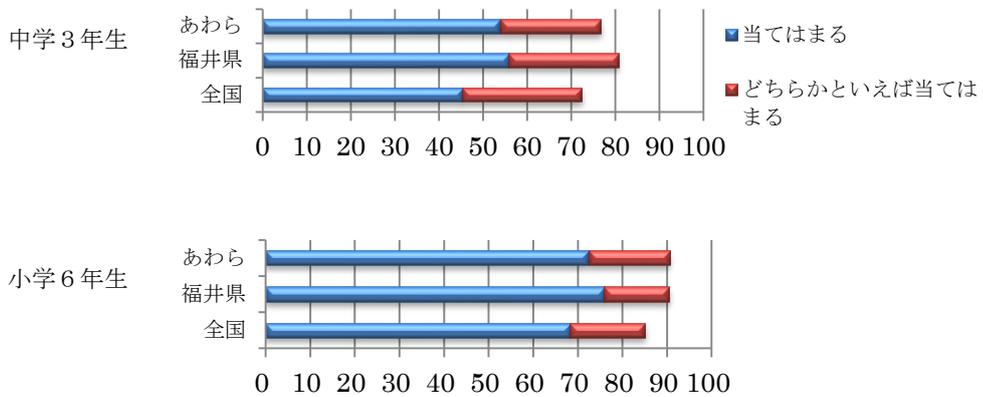
自尊感情

自分に良い所があると思っている児童生徒が約8割です。また、将来の夢や目標を持っている児童生徒は、学年が上がるにつれて減少傾向にあるようです。

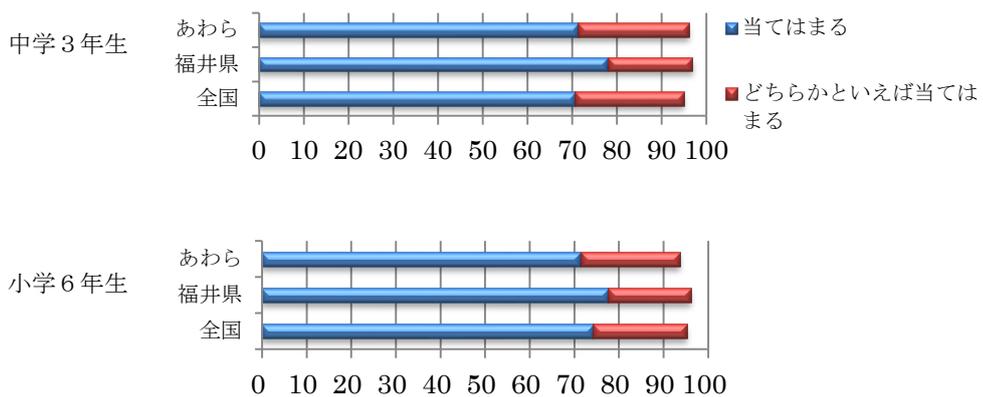
○自分には、よいところがあると思いますか。



○将来の夢や目標を持っていますか。



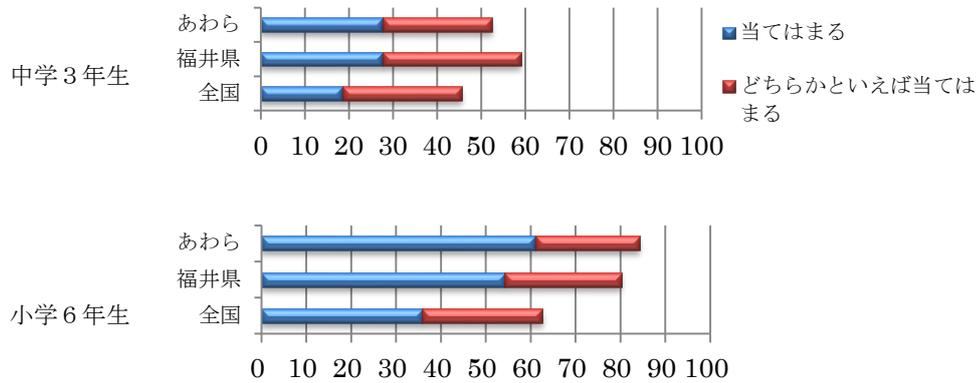
○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



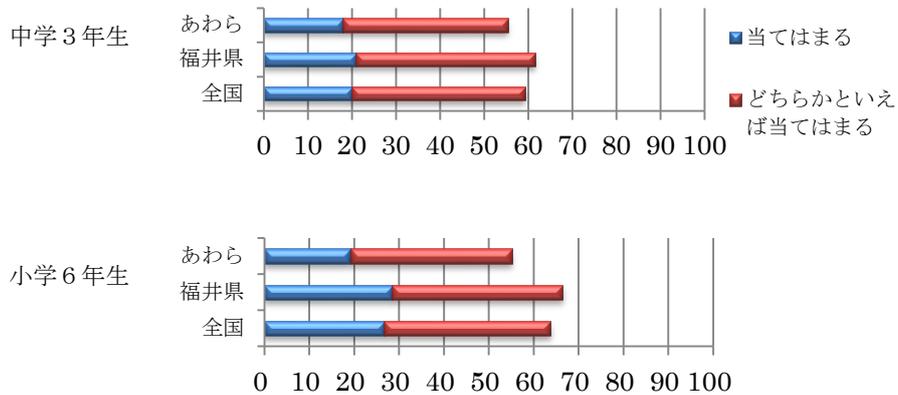
社会性

小学生は地域の行事に積極的に参加していますが、中学生になると少なくなります。地域や社会で起きていることに関心が弱く、問題意識を持つ機会が求められます。

○今住んでいる地域の行事に参加していますか。



○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。



○地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますか。

